

第2回 半田市立半田病院 新病院建設候補地検討委員会
議事要旨録

日 時	平成30年1月22日（月） 午後2時～4時	
場 所	半田市立半田病院 第4会議室	
出席者 (敬称略)	名古屋市立大学名誉教授	瀬口 哲夫
	半田市医師会会長	花井 俊典
	名古屋大学医学部附属病院副病院長	清井 仁
	愛知県半田保健所所長	増井 恒夫
	半田市区長連絡協議会会長	小栗 吉昭
	半田病院経営評価委員会委員	篠田 陽史
	半田病院経営評価委員会委員	山本美津穂
	半田市副市長	堀寄 敬雄
	半田市立半田病院副院長	渡邊 和彦
アドバイザー	名古屋大学教授	飛田 潤
	名古屋大学特任教授	護 雅史
事務局	事務局長	竹内 甲司
	管理課長	大嶽 浩幸
	医事課長	沢田 義行
	管理課主幹	都築 靖
	管理課副主幹	作左部昌俊
	管理課副主幹	青木 賢治
	管理課主査	水野 涼子
	管理課主査	園田 美穂
	管理課	滝澤 敏子
傍聴者	23名	

○大嶽管理課長

定刻となりましたので、ただ今から、第2回半田市立半田病院建設候補地検討委員会を開催させていただきます。委員の皆様並びにアドバイザーの皆様におかれましてはご多用のところ、委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日は9名全員の委員の皆様にご出席をいただいております。半数以上の出席がありますので、半田市立半田病院新病院建設候補地検討委員会設置要綱第6条第2項の規定により、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

初めに、前回の会議では、ご都合によりご出席いただけませんでした花井委員と清井委員に自己紹介をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○花井委員

半田市医師会長の花井と申します。

前回は本当に申し訳ございませんでした。臨床上の仕事のことがどうしても調整がつかずに、欠席をさせていただきましたけれども、その件につきましては、事務局のほう

から後日改めて説明いただきました。

この中でも語られておりますように半年、1年と言わず、1か月でも早くつくれるように、という思いは共通して持っておりますので、皆様方の、迅速なご審議をいただいてというように思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大嶽管理課長

ありがとうございました。

○清井委員

名古屋大学附属病院副院長をしております、清井であります。

私、専門は血液・腫瘍内科でございまして、残念ながら本病院に当科からは、診療を行っていないのですが、病院の執行部からの立場ということで、少し参考になる意見を述べさせていただけることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

○大嶽管理課長

ありがとうございました。

続きましてアドバイザーの先生方からも自己紹介をお願いいたします。

○飛田先生

名古屋大学の飛田と申します。よろしくお願いいたします。

私、建築、特に建築物の耐震それから防災といったところが専門でございまして。

よろしくお願いいたします。

○護先生

皆さん、こんにちは。名古屋大学減災連携研究センターの護と申します。

私は、建築耐震で、特に基礎とか地盤のところの研究をしておりますので、もし必要に応じてご助言できればと思っております。

よろしくお願いいたします。

○大嶽管理課長

ありがとうございました。

次に傍聴される方をお願いをいたします。傍聴者遵守事項を遵守いただくように、よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

事前にお配りいたしました資料としまして、次第。それから、本日お配りをいたしました資料としまして、第1回の検討委員会の議事要旨録と資料1として、説明用のスライド集でございます。

以上、不足はございませんでしょうか。

それでは、以降の議事進行につきましては、瀬口会長をお願いいたします。

○瀬口会長

それではまず、会議の録音について、申し出があるようでございますので、許可についてお諮りをしたいと思います。

本日会場で配布している傍聴者遵守事項の中に「傍聴人は、傍聴においては、写真、映画等を撮影し、又は録音してはならない。ただし、会長が許可した場合は、この限りでない。」とあります。

録音したそのものの肉声あるいは内容そのものをインターネットなどでの、他のメディアにそのまま利用しないということを条件に、前回同様に、本日、許可をしてもよいと考えておりますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

○瀬口会長

特に異議がないようでございますので、本日についても、録音については許可をするということにさせていただきたいと思います。

それでは、早速、議事のほうに入らせていただきます。

議事は一つでございます。新病院建設候補地についてということになっております。事務局から説明お願いいたします。

○青木副主幹

それでは、議事の１、「新病院建設候補地について」ご説明させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

また、前のスクリーンのスライドと同じ内容のものを、当日配付資料としてお配りしておりますので、そちらもあわせてご覧ください。

これは、昨年の１２月２２日に開催した第１回の検討委員会において、委員の皆様からいただいたご意見等を、新病院の建設候補地を検討するにあたっての四つの視点ごとにまとめたものです。

主なものを申し上げますと、

- ・市街化調整区域に建設した場合、時間がかかるということだったが、期間を短縮する用途はあるのか。
- ・半田運動公園及び北部グラウンドに移転した場合、経営を圧迫するのではないか。
- ・時間をかけてしまうと、半田病院そのものが消滅してしまう可能性がある。早く建設することが命題である。
- ・インフラ整備にかかるコストを明示してほしい。
- ・雁宿ホールを候補地として検討する。
- ・活断層の年代や資料の精度について、専門家から説明してほしい。
- ・市民の利便性や交通アクセスについて説明してほしい。
- ・現地視察を実施してほしい。
- ・運動公園に建設した場合は、常滑市民病院との連携が必要となる、などでした。

これら委員の皆様からいただいたご意見の中から、雁宿ホール周辺を含めた建設コスト及び工期について、活断層について、経営面についての３点について説明させていただきます。

まず、雁宿ホール周辺の状況と、それを含めた三つの候補地での建設コスト及び工期について説明させていただきます。

こちらは雁宿ホール周辺の地図になります。上が北の方角になります。

名鉄知多半田駅の北西約 200 メートルに位置し、雁宿ホールと北側の雁宿駐車場合わせ、全体では約 2 ヘクタールとなる土地を候補地として想定いたしました。

なお、雁宿ホールの場所につきましては、昭和 57 年に現病院が現在地に移転する前まで旧病院があったところでございます。

雁宿ホール周辺が病院建設地として適切と考えられる点ですが、

- ・津波の危険性がなく、高潮浸水想定範囲、豪雨時の浸水区域でもないこと
- ・鉄道駅からの移動距離が短く、またバス停からも近いこと
- ・道路や上下水道、ガス管などのインフラが整備されていること

などが挙げられます。

また、課題点といたしましては、

- ・加木屋一成岩断層が近くにあること
- ・元々が池だったため、液状化の危険性があること
- ・広く市民が使用している文化、福祉施設及び公共駐車場を取り壊すため、代替施設が必要であること

そして、

- ・平成 25 年度以降、国や県の補助金を活用して太陽光発電の設置や、天井や照明の改修工事等を行っており、それを取り壊して新病院を建設することは、約 5 億円の事業費が無駄になってしまうこと

などが挙げられます。

建設コストにつきまして、半田運動公園は、北部グラウンドと比較した場合、土地造成の費用がかかります。

また、雁宿ホール周辺については、面積が他の場所に比べ狭いため、駐車必要台数の確保のために、他の 2 か所と比べて大きな立体駐車場の建設が必要となりますので、その分の建設費用がかかることとなります。

インフラ整備費につきましては、雁宿ホール周辺は整備済みであるため、特別に費用は必要としませんが、半田運動公園及び北部グラウンドの場合、アクセス道路の整備や上水道の整備、電気やガスの引き込み、汚水処理建設施設工事費などが必要となります。

代替施設等については、それぞれ現在のものと同規模のものを建設した場合の工事費等を計上しております。

それぞれを合計いたしますと、半田運動公園と北部グラウンドが約 310 億円、雁宿ホールが約 384 億円となります。

なお、雁宿ホールの代替施設については、他の市の所有地での建設を想定しているため、用地買収費は含んでおりません。

また、建設予定地決定から竣工までの工期につきましては、半田運動公園と北部グラウンドが7年。雁宿ホールにつきましては、施設のあり方や施設内にある各団体との協議、代替施設の建設工事を優先するため、少なくとも9年以上を要するものと考えており、前者の場合、平成37年5月、後者では、最も早い場合でも、39年5月の開院予定となります。新病院建設は一刻も早く建設することが命題であり、早期建設の可能性、建設コストの低減などの観点から、雁宿ホール周辺を新病院建設候補地とすることは、現実的ではないと考えております。

続きまして、活断層についてご説明させていただきます。

こちらの地形図は、半田市内にある活断層や、活断層の一種である撓曲の分布と雁宿ホールを含めた3か所の候補地の位置を示したものです。

前回も説明させていただきましたが、①は、阿久比東部撓曲であり、北部グラウンドの近傍を通っています。

③は、半田池撓曲であり、半田運動公園の近傍を通っています。

②は、加木屋一成岩断層であり、市内では岩滑小学校の東から半田農業高校や半田商業高校の東を通して、青山地区へ続いていると考えられています。

この断層は雁宿ホールの近くを通っているということがおわかりいただけると思います。

前回の委員会でご意見をいただきました「愛知県活断層アトラス」におけるデータの調査方法、それから、活断層の年代、資料の精度等についてご説明させていただきます。

まず、愛知県活断層アトラスは、平成9年9月に愛知県が発行したもので、昭和54年に愛知県防災会議が策定委託した「愛知県とその周辺地域における活断層と歴史的地震の分布図」の改訂版として、一般向けに作成されたものであり、平成9年2月に公表した「知多北部・衣浦東部地域の活断層調査結果」の内容が盛り込まれております。

なお、この愛知県活断層アトラスの内容につきましては、愛知県のホームページでご覧いただくことができます。

その「知多北部・衣浦東部地域の活断層調査結果」については、文献調査、空中写真判読、及び、地質踏査により、取りまとめたものとなっております。文献資料調査は地形・地質・断層などの文献を収集整理し、各断層の実態を把握しています。空中写真判読は、昭和24年、もしくは、昭和36年撮影の縮尺約4万分の1、2万分の1、1万分の1の空中写真を用いて、段丘面や沖積低地面上の変位地形を判読しています。

また、当時、加木屋断層、阿久比撓曲と呼ばれていた現在の加木屋一成岩断層の一部では、物理探査やボーリング調査を実施しています。

次に、前回の委員会でご質問のありました、それぞれの断層などの活動履歴などについてですが、①の阿久比東部撓曲については、この数十万年は活動した証拠は確認されておられません。

②の加木屋一成岩断層の上下変位の平均変位速度は、1,000 年当たり 0.12 メートルと考えられ、活動間隔は 2 万年以上と推定されています。なお、最新の活動時期は不明となっております。

③の半田池撓曲は、東海層群が大きく変形し、武豊層の一部も変形しております。

それでは、最後に、経営面についてご説明させていただきます。

新病院建設に関する収支計画についてですが、まず、収支計画を作成するに当たっての前提条件といたしましては、半田運動公園及び、北部グラウンドにつきましては、平成 37 年 5 月を開院予定とし、雁宿ホール周辺については、平成 39 年 5 月を開院予定としております。

開院前の医業収入単価は、平成 30 年度予算と同額、修繕費は、平成 30 年度予算の 2 割増で計上しております。

また、開院後の収支等を計算するにあたっての算定条件につきましては、平成 28 年度に策定しております「半田市立半田病院新病院建設構想」の条件を使用しておりますが、インフラ整備費、代替施設費については、含めておりません。

自己資金は約 50 億円と設定し、残り約 240～250 億円は企業債とし、国、県からの補助金及び企業債の返還費用、人件費も含めております。

なお、市からの繰入金については、病院からの要望額としております。

開院後の収支等を計算するにあたっての算定条件の主なものについてご説明いたします。

病床数は 411 床、入院における病床稼働率は、1 年目は 85%、2 年目、3 年目は 87%、4 年目は 90%、また、1 日 1 人当たりの入院診療単価は、6 万 2,560 円としております。外来につきましては、1 日当たりの平均外来患者数は 970 人、外来診療単価は 1 万 3,725 円としています。

なお、正規職員の人数は、医師 100 名、医療技術職 117 人、看護師 410 人、事務職員等 41 人の、合わせて 668 人としています。

これは 3 か所のいずれの候補地に建設した場合も、同じ条件としております。

こちらは先ほどの前提条件及び算定条件を基に、純損益の収支計画をグラフにしたものです。

純損益とは、病院事業の運営にかかる全ての収益から全ての費用を差し引いたものです。いずれの場合も、開院の 2 年目に大幅に赤字が大きくなっていますが、これは、既存建物の解体費や解体に伴う資産の除却損によるものです。

黒字転換については、半田運動公園と北部グラウンドが、開院 10 年目の平成 46 年度、雁宿ホール周辺は、開院 9 年目の平成 47 年度となります。

経営面を考えるに当たり、先ほどの建設コスト及び収支計画と同様に考慮しなければならないと考えられる、それぞれの病院の機能についてご説明させていただきます。

なお、病床数の内訳については、平成 29 年 3 月に愛知県が公表しました「平成 27 年度病床機能報告」に記載されております、2021 年 7 月 1 日現在の各医療機関が自主的に選択した機能の状況となりますのでご了承ください。

まず、北部グラウンドに新病院を建設する場合には、阿久比町や東浦町との境や、衣浦大橋に近いということから、二つの町や西三河からも半田病院を受診する患者さんが増えることも考えられ、患者数が増える可能性もあります。

その反面、半田病院とほぼ同様の機能を目指す公立西知多総合病院及び刈谷豊田総合病院と合わせると、高度急性期並びに急性期の患者の病床数が、1,600床以上となるため、三つの病院で競合する可能性があります。

次に、半田運動公園に新病院を建設する場合には、知多半島南部の医療体制をカバーすることが可能となります。

その反面、常滑市民病院と近接することとなるため、それぞれの病院の今後のあり方についての協議が必要となります。

こちらは、それぞれの病床機能の区分についてまとめたものです。

また、各医療機関における主な医療機関指定状況についてご説明をいたします。

半田病院は、一般の医療機関では対応できない重篤な救急患者に対し、24時間体制で高度な医療を総合的に提供する救命救急センター、災害拠点病院の取りまとめと機能強化を通じ、当該地域の災害医療体制を強化する役割を担う地域中核災害拠点病院、質の高いがん医療が受けられ、がん医療の内容、医療従事者、診療実績、設備など一定の要件を満たしているがん診療連携拠点病院、地域医療の充実を図る病院である地域医療支援病院などの指定を受けています。

他の病院の指定の状況につきましては、ご覧のとおりとなります。

こちらは救命救急センターと災害拠点病院について説明したものです。

同様に、がん診療連携拠点病院、がん診療拠点病院の説明と地域医療支援病院の説明になります。

最後に、こちらは半田市内における地区別人口の分布図です。

先ほどの知多半島医療圏等における主な病院の機能等とあわせ、ご参考にしていただければと思います。

なお、前回の委員会でお伝えいたしましたDPCデータにつきましては、次回の検討委員会でお示ししたいと思います。

また、外来患者や医師会等に対するアンケート調査につきましても、取りまとめのうえ、次回の委員会であわせて皆様に結果を示させていただく予定をしております。

以上で、事務局からの説明を終わります。

○瀬口会長

ありがとうございました。

前回のご意見を含めて、宿題あるいは活断層、経営面について懸念が出されましたので、資料を収集していただいてご説明していただきました。

ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○篠田委員

8 ページの建設コストと工期の中の、代替施設等の金額ですが、半田運動公園と半田北部グラウンドの場合には、代替のための土地の購入費が出てくると思うのですが、それが含まれているのかいないのか、ということと、もしないとすれば、概算でどのくらいになるのか。

それからもう一つは、広さが問題になってきますので、半田運動公園、北部グラウンド、雁宿ホールのそれぞれの建ぺい率、容積率と地域の指定を教えてくださいたいと思います。

○青木副主幹

まず1点目のご質問、半田運動公園、半田北部グラウンドの代替土地の取得費が含まれているかということですが、これは含んでおります。

次に2点目の、それぞれの土地の建ぺい率、容積率と地域ということですが、雁宿ホールにつきましては、建ぺい率が80%、容積率は300%でございます。また、地域といたしましては、商業地域に指定されております。

ほかの2か所、半田運動公園と半田北部グラウンドにつきましては、市街化調整区域になっておりまして、建ぺい率が60%、容積率は200%でございます。

○瀬口会長

よろしいでしょうか。

他にはどうでしょうか。

○堀寄委員

せっかく防災の専門の先生がおみえになっているので、その活断層の危険性みたいなところがちょっとよく理解できてないので、もう少し何か説明していただけるとありがたいと思います。

○瀬口会長

最初にその話をお伺いしてからスタートしなきゃいけなかったのですが、先日現地を見て、知っている方も、知らない方も、現地を再確認していただいたかと思います。

それで、前回、活断層、撓曲について、質問も出たところで、説明をしていただきましたが、専門家の立場で補足的な説明をしていただけたらと思います。

それから今、副市長さんからありました質問とあわせて、お願いしたいと思います。

○飛田先生

名古屋大学の飛田でございます。

活断層そのものの資料の見方ですか、その危険性といったことに関しては、私は専門でございませんので、十分なご説明ができません。

先ほどのご説明のとおりかと思います。

一方で私の専門の耐震ですとか防災という観点から申しますと、やはり地域全体では

ございますが、先に考えなければいけない大きな地震災害、ということになりますと、これは、もちろん皆さんがよくご存じの南海トラフの大きな地震による広域の大災害ということが一つ。

それから、活断層による大きな地震ということが大いにあります。

南海トラフの地震は、今後 30 年以内に 70%以上といったような非常に高い確率が予想されるわけですので、恐らくこの病院が機能している間に起こる可能性がかなりあるとお考えいただく必要があるでしょう。

一方で、活断層の地震は、これはもう千差万別でございますから、いつ起こるかわからないところがございますが、過去のいろいろな資料によれば、南海トラフの地震が発生する前後、大きな地震が発生する前後では、東海地域の活断層の地震、どこという場所はわからないながらも、活断層の地震が活性化する、といったようなことは、過去のさまざまな知見から、わかっているところでございます。

ですので、いずれも、建物を設計、計画するに当たっては十分な配慮が必要と考えます。

そういう意味では、南海トラフの地震は広い範囲に比較的大きな震度、しかもこの地域であれば震度 6 強から 7、これは場所によって若干の差はあれ、やはり、建物に対する意味としては、場所によって、それほど大きな差があるとは言えないと思います。

それから長周期の地震動、これはさらに、広い範囲で大きな差をつけることが難しいと思っております。

一方、活断層の方は、活断層が動いたときに近くにあれば、その影響が大きくなりますけれども、これも活断層の場所は線がひいてはありますけれども、明確とは言えませんし、どれくらいの距離が離れたら安全かというのもケースバイケースですので、これも何とも申し上げられません。

以上のようなことを考えますと、少なくとも場所によらず、計画する建物には十分な耐震の性能が必要であると、これだけはっきり申し上げたいと思います。

特に、免震の建物となる可能性が高いとは思っておりますが、この場合、やはり長周期の地震動、これは南海トラフの地震でももちろん非常に問題ですし、それから活断層の地震でも最近の熊本の地震などでは大きな振幅、長周期パルスと呼ばれるような非常に活断層に依存する大きな振幅の記録がとられておりまして、これは私の知見したところでも免震とともに相当大きな影響を与えます。

以上を考えても、やはり建物には通常の設計、計画以上に、きちんとした耐震性を持たせることが重要ということとは言えるのではないかと思います。

そういう意味で半田市さんは、半田市役所の計画において、非常に大きな地震動に対応することも含めて、非常にきちんに対応されていると思っておりますので、こういったことをきちんとしてやるのが大切と思っております。

その他にも、設備機器の耐震性ですとか、それから上下動への対応というなことも含めて、通常以上の配慮がなされることが期待されると思っております。

以上です。

○瀬口会長

ありがとうございました。護教授、お願いいたします。

○護先生

どの場所についても、やはり活断層の影響というのはあり、長周期の南海トラフの地震動に対する影響も、多かれ少なかれあると思いますので、そのあたりはどの地域を選定しても、それぞれ対策をとる必要があると思います。

その他に、これに加えて半田運動公園、あるいは北部グランドの2か所につきましては、丘陵地というところもございますので、切り土盛り土の問題があります。

そして、その場所によって切り盛りの状況が異なったりするので、やわらかい地盤では少し沈下をしたりすると、基礎全体が傾くということはあるかもしれません。

そういう意味で、免震建物をその地盤の良し悪しや、あるいは、丘陵地は基盤が凸凹しておりますから、そのあたりをしっかりと入念に調査した上で、基礎が地震等で傾いたりしないか、免震建物は一度傾きますと、その方向にスライドしていきますが、擁壁にぶつかる等の、被害等も考えられますので、そのあたりを厳重に検討していくということが別途大事じゃないかと思います。

それと撓曲や活断層で上下の変位がありますと、先ほどの地盤の話と同じように傾くということもありますから、そのあたりの対策についても、別途考えられることだと思います。

では、3か所でどう違うかというのは、なかなか活断層の位置等は正確には決められないところがありますから、どの場所を選定するにしても、やはりその場所場所で起こり得ることを想定して設計に反映させることが大事なのではないかというふうに思っております。

以上です。

○瀬口会長

ありがとうございます。

活断層等について、せっかくいらしていただいているので、集中的にご質問がありましたら伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

突き詰めていくと、どこでも同じだとはってはいけないですね、きっと。

どこでも注意なさいという意見であって、どこでもいいという意味ではないですね。

○護先生

はい。どこがより安全かというのも、なかなか言えないです。

○瀬口会長

そういうことだそうですが、よろしいでしょうか。

地形図を見ると、相当、密に活断層や撓曲が入っています。

よろしいですか。

建物の設計の時は、地盤の状況と、市庁舎と同じように免震を使って、免震に対してもちょっとブレーキのようなものを入れて、より安全度を高めていく。

それから医療機器があるので、機器が停まらないような対策、建築的な対応を十分やってくれということだったと思うのですが、よろしいでしょうか。

もちろん専門家のアドバイス関連のものでありましたら随時ご質問ください。

他にはどうでしょうか。

前回、経営面について、篠田委員さんからもご注意をいただいたわけですが、今日の資料でお気づきの点等ありますでしょうか。

○篠田委員

これは非常に難しく、何とも言えないのですが、一応現在は前提条件が、入院それから通院ともに、三つの候補地が同等の条件で計算されています。これ以上のことはなかなか想定が難しいので、ちょっと言えないだろうとは思いますが、市民の利便性というのは、実は、前の計画からひっくり返った1番大きい理由は、津波で浸水する、建物は大丈夫、それから緊急通路も大丈夫だろうけれども、病院機能を満足するのは、できるかどうかわからない。そういうのが1番大きい理由だったと思います。

病院は津波の高さが想定されますので、それに合わせて、嵩上げするという計画だったし、それから病院へ来るための道路については十分確保されるというのもありました。ただ、緊急車両は来ることができるかもしれないが、一般市民とか、病院関係者がそういう災害が起こったときに来ることができるかどうかというのは、来る本数といいますか、道のルートが少ないので、それがはっきりしない。

それが一つ問題で、たぶん、市民運動で署名が集まったということで、知事さんの「最初に戻って、もう一度これを見直そう」と、こういうことになったと思うんですね。

ただ、その中で1番問題になっている利便性の問題、これについては、今回の計画の中ではそれ程の問題点といいますか、ここには取り上げられてはいないのですね。この、今日いただいた資料の中でもですね。

実は私、この前見せていただいて、もう1度、自分で車を走らせてみました。

ただ、救急車は、信号を何とかかわすことができるので少し違うと思いますが、1番問題な、例えば半田運動公園の場所へ私の住んでおります亀崎地区から走るとどのぐらいかかるかというのを走らせてみました。

時間は午後4時30分に、走らせてみました。その結果ですと、27分かかりました。

病院からではないのですが、半田運動公園の東出入口から亀崎高根町6丁目の亀崎中学校近くにある自宅まで、27分かかりました。

北部グラウンドまでは、12分。

雁宿ホールまでは、走らせておりませんが、半田大橋から先ほどの半田運動公園までの時間がおおよそ15分ぐらいかかっていますので、先ほどの27分から15分引くと12分になりますが、ちょっと12分では、難しいだろうと思います。

時間的にはそんなことですが、交通機関は全く違いますね。

今のは乗用車で来るということを前提にしておりますので、こここのところで本当にこれを選ぶときに、雁宿ホールが金額的には、非常に高いものになりますが、今度運用して一般市民の通院件数がどうなるのか。

それからもう一つは、もし市民の要望で専用バスを走らせるということになりますと、この費用というのは、結構高いものになります。

北部グラウンドにするか、半田運動公園にするかっていうのは、これは、多分それぞれの地域で、賛成反対がものすごくあるので、どうするか決めるよりほかに方法はない

と思いますが、雁宿ホールの場所を犠牲にするかどうかというのは、もう少し検討の余地はあるのではないかと思います。

○花井委員

さまざまな方からさまざまな話を聞きますと、やはり、今、篠田委員がおっしゃったように、我田引水的な話を聞くわけです。

事務局にお伺いしますが、それぞれの地元である板山地区や有脇地区の区長さんから、市のほうに要望書が多分出ていると思うのですが、それをこの会議で公開することは可能ですか。恐らくそこには、その地区の方々が自分たちのメリットと考える要件が並んでいると思います。

それは、ここにございますか。

○瀬口会長

いかがでしょうか。

○竹内事務局長

今、手元にはございません。

○花井委員

この会議で公開することはできますか。

○竹内事務局長

はい、公開することは大丈夫ですので、皆様のお手元に届くようにさせていただきます。

○瀬口会長

地元から反対があるんですね。

やっぱり、そういうことも考えなきゃいけないけど、地元がウエルカムっていうのは、一応伺ってみる価値はあるかもしれません。

○花井委員

両方、自分のところへ新病院を持ってきてほしいという内容だとは聞いていますが、そうなんです。現実には病院に近い方がいいという話ですが、おっしゃるようにコミュニティーバス、とにかく通院手段として、バス以外考えられないわけです。公のものを考えるとすると。

そうすると、どこにターミナルをつくり、どこから出発するかによりけりですが、どっち側にもあっても、半田の中心部、例えば市役所あたりから順番に回っても、ぐるりと回って帰ってくれば1時間ぐらいはかかってしまうような、そういう大きなループをやれば、はたしてこれで、利便性をとという話になれば、どっちもだめなんです。

どっちもだめなんです、そのだめはだめなりに、何とか解消する方法がないものかと、いうところに知恵を絞っていただくしかないですね。

どちらかに決めるというのは、今、医師会員の中も、自分たちに近い方がいいと言いますので、どちらかに決めるというほうには動いていません。

ただ、ここで決定していただいたお話を、医師会に持って帰って、医師会の先生たちと相談しながら、次回までの間に、あるいは最終回までの間に、何らかの方向性を出すということは可能だと思いますが、今、現時点でどちらがいいかというはっきりした話は出てはおりません。

しかし、雁宿ホールというのは、みんな一瞬のけ反りましたけども、医師会の先生たちも、本当にできるのなら、それは考えてみてもいいよね、という話は出ています。

当初から諦めていた場所でしたので、それを、前回の会議で出たという話を聞いたときに、いったいどうやって造るんだろう。敷地的に、間に合うものなのか。敷地的に間に合うとすると大体何階建てぐらいの病院を造らなきゃいけないのか、そして駐車場としては一体何層に積みばいいのか。

その辺の具体的な話が全然わからないので、半田運動公園にしても北部グラウンドにしても、高層階の診療棟は考えていないと思うんですね。

多分3階建てか4階建てででしょうか。

考えてみると、もし雁宿ホール跡地に造るとすると、それを何階建てにするのかというようになるのでしょうか。

だいたい見当がついているようなことがあるのなら、教えていただければありがたいのですが。

○青木副主幹

雁宿ホールに造る場合ですが、敷地面積が2ヘクタール、2万㎡程度ということですので、その中で先ほど申し上げた、建ぺい率80%、容積率300%という条件の中で、要求している約3万7,000㎡の病院の建物と約1,000台を収容できる立体駐車場を考えた場合に、病院建物といたしましては5階建て、立体駐車場につきましては5階建てで屋上を含めると6層になります。

そうすれば、その建ぺい率80%、容積率300%の中で、何とか納まるだろうという試算をしております。

ただし、本当に敷地いっぱいになりますので、余剰地といいますか、将来的な増築、拡張に対する対応といたしましては、なかなか厳しいものがございます。

○山本委員

雁宿ホールについて、利便性はすごく考えられていて、確かに良いと思うのですが、雁宿ホールの周りは、今すごく住宅地になっていて、あの辺の住民の声はどうなっているかということもお聞きしなければいけないのではないかと思います。

以前、半田病院が建っていたときは、雁宿公園の周りは何もなかった。今はすごく家が建って、住宅地になっています。ヘリが離着陸しなければいけないので、その騒音等のことも考えないといけないのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○瀬口会長

どうでしょうか。

地元からの要望が出ているのが2か所、今の山本さんの意見では、雁宿ホールはどちらかというと、地元の人としては反対なのではないかということでしょうか。

○山本委員

反対ではなくて、地元の声を聞いていないのではないかということ。

○瀬口会長

いや、聞かなくても今請願が出ているでしょうか。

○渡邊副院長

雁宿ホールは、正式に候補地として皆さんに公表しておりませんから書けません。

もう一つは、赤レンガのときもそうでしたが、地域住民のサイレンの音だとか、今でも走っていますが、それが頻繁になると、ヘリに関しましては、今、うちでも年に、そんなにしょっちゅう、しょっちゅうヘリコプターが飛んでくるわけでありませんので、それは大丈夫だと思いますが、それに対しての、地域住民への聴取ということは、現時点ではまだ行われておりませんね。

○瀬口会長

他にはどうでしょうか。

先ほどコミュニティーバスということを言われました。要するに、名鉄の民間のバスはもうだめだというふうに考えているんですね。

つまり、仮に郊外につくられたら、バスで来る人は絶対的に民間では成り立たない人数だと。こういう認識でよろしいですか。

○堀寄委員

今、コミュニティーバスを半田市は走らせてないのですけれども、走らせようということで、このような検討会議を開いております。

半田運動公園側については、現在ある常滑線という、板山街道というところを常滑の大曾を抜けて常滑に入っていく、空港バスもそこを通っているのですが、そのバス停から運動公園まで歩いていただくと、多分、200、300メートルぐらい。

少しお年寄りが歩くにはどうかな、という距離のところにバス停がある状況があります。

北部グラウンド側については、今、コミュニティーバスで大きなポイントになっているのが、半田東高校という高校の生徒さんの通学や、そのすぐ近くにある日本福祉大学という大学の通学。日本福祉大学は、自分のところのバスで学生さんを運んでおるのですが、今回、それと市のコミュニティーバス等を合体化させようという議論を進めておりまして、日本福祉大学の駐車場内に市のコミュニティーバスの停留所をつくっていただく話になっております。

それに日本福祉大学の駐車場から北部グラウンドまでは、数kmの距離ですので、今、終着点が日本福祉大学の駐車場になっていますが、その終着点を北部グラウンドの病院に持っていくということは、かなり現実的なことにはなります。

というのが、今バス側の状況です。

ただ、これも決定されたことではないので、にわとりが先か卵が先かと一緒に、病院の建設地が決まるのが早いのか、コミュニティーバス側が決まるのが早いのかわかりませんけれども、ただそこまで行くことはもうほぼ決まっておりますので、コミュニティーバスの状況だけを言えば、北部グラウンド側のほうが少し利便性が確保できるのかなということは思っていますが、半田駅からの時間でいくと、両方ともあまり変わらないので、今の状況では厳しい状況になるのかなと思っていますけども。

○瀬口会長

利用者の人数的にはそんなに多くないという認識でよろしいですか。

○堀寄委員

知多バスさんがその路線はそれなりの基幹路線としての役割を維持していただけていることになっています。市も多少の補助は入れるかもしれませんが。

○瀬口会長

両方ともですか。

○堀寄委員

その路線は両方とも担っていただく予定です。

○瀬口会長

そういうことだそうです、他にはどうでしょうか。

○渡邊委員

現病院は比較的、市の中心にあるのですが、現在でもほとんどの患者さんが、車でみえています。たしか90%ぐらいです。

どうしても郊外へ行くと、皆さん、遠いんじゃないか、と言われますが、実際問題、電車でこの病院にみえている人は、ほんの一部なんですよね。

そういうことを考えますと、もちろんそのバス路線の整備、コミュニティーバス、民間のバス、これも必須だと思いますが、公共交通機関を使ってみているかということはないのが現状です。

あともう一つ、今まで職員駐車場につくるって言っていたのが、雁宿ホールなら違いますけれども、半田運動公園か北部グラウンドになると、病院のコンセプトが変わってくる話ですよ。

要は、職員駐車場ですと、いわゆる半田市民病院、市民のための病院という色合いが強いと思います。

雁宿ホールなら、やっぱりそういうふうになろうかと思いますが、北部グラウンドにしろ、特に半田運動公園に行く場合というのは、要は構想自体、病院の役割が変わってくるわけです。

そういうことも含めて、将来当院がどういう機能を担っていくのかということも、や

っぱり大きな観点から見て、場所というのは考えるべきかな、というふうに僕は思っています。

○篠田委員

今の渡邊先生のご意見のとおりだと思います。

以前、この病院はどうあるべきか、というのを、いろいろ検討してきました。

その中で、市民のための、いわゆる市民病院という病院を望まれる方が結構多かったけれども、現実には「この病院は、知多半島の中核病院なんだ。救急がなくなってしまうたら大変だ。」という話も大きく出て、この病院でもやはり、救急を主体に考えていたと思います。

ですから、前言われたように、本当に今度どうするかというのは、コンセプトの問題だと思います。

市民に対して「こういう考え方で病院をやります。」というのをよく言わないと、病院ができてから、あんな不便なところにつくって、という話になってしまうと思います。

これ非常に大事だと思いますね。

○増井委員

病院の役割という話が今出ていたので、この病院が知多半島全体の医療圏で果たす役割が非常に大きなものがあるということは、保健所としても認識してしまっていて、今、特にこれから高齢化が進むにつれて、病院でどういう機能を持った病床を割り当てていくかというのを、今検討しているのですが、その中でやはりこういう高度救急的なものを半田病院でしっかりやっていただくというようなこともありますし、それから、この半田運動公園に行った場合については、常滑市民病院との距離が近くなるわけですが、うまくどういう病床を持つかということのを割り当てることによって、非常に大きな機能を二つの病院でお互い割り当てることができるのかな、ということもあります。

それから、災害時の対応ということで非常に大事な役割があるわけですが、昨日もこの半田運動公園からヘリコプターで患者さんを搬送する訓練があったわけですが、その半田運動公園に、もし病院ができたなら、そういう患者さんを搬送するような、そういうところの役割も非常にやり易くなるということがあると思います。

それから、半田運動公園、常滑市民病院ともに、中部空港とも近いものですから、例えば空港からの医療観光、そういう今はない需要っていうのも、その場所が変わることによって出てくる可能性もあるということで、やはり市民のための病院ということは、非常に大事な視点なのですが、それ以外に、この知多半島全体でどのような役割があるかということを考えて、いろいろなことを考える人が出てくるのかなと思っています。

○瀬口会長

今の視点ですと、市民病院としての役割は十分これまでどおり担っていったら、それで半田運動公園のほうだと、もう少し広域的な役割が、担える可能性が高くなるということでしょうか。

北部グラウンドのほうも同じですか。

○増井委員

そうですね。北部グラウンドも知多半島道路からわりと近いですし、同じような役割が担えるかと思います。

ただ、病院の位置関係でいくと、半田運動公園にいくと常滑市民病院とすぐ近くなるので、かなり一体化して、どういう病院の機能を持つかということを考えるということができると思うのですが、北部グラウンドの場合は、もう少し病院が離れてくるのでまた別の考え方になってくるかと思います。

○瀬口会長

先ほど、刈谷豊田総合病院等と近接するのではないかとありますが、それはあまり重要な要素じゃないのですか。それともかなり重要な要素になるのですか。

○増井委員

そうですね。基本的に、その辺は難しいとは思いますが、知多半島の中で考える場合は、刈谷豊田総合病院に行っている患者さんも多いのですが、そこのところは今ちょっと置いておいて、知多半島の中で考えているので、それがまた刈谷豊田総合病院に近いところに行ったときにどういうふうに患者さんが移動して、どういうふうに病床を考えるかということ、そこまでは十分検討しないといけないと思います。

○瀬口会長

清井先生どうでしょうか。

○清井委員

非常に難しいところだと思います。

今、渡邊先生が言われたことが1番大事なかと、私も思います。

あとは今後、急性期病床あるいは高度急性期病床というものが整理されていきますし、また、そういうのに対して、医療費の点数とかも変わってくるとか、いろいろ経営的な面が変わってきますので、やはり全体的なプランというのが立ってこない、そのあとの算定条件とか、お金を返していく、その辺の条件というの、変わってくるんだろうというふうに正直思います。

ですから、先ほど言われたように、半田運動公園ですと、やはり常滑市民病院とあわせて、急性期の病床が減ってくるということです。

北部グラウンドに行くと、刈谷豊田総合病院は高度急性期をメインとしている状況の中で、半田病院はどういう位置づけになっていくのかという差みたいなものもありますので、やはりその辺のところの位置づけも考えて対応していかないと、なかなか難しいのではないかと考えています。一概にこれだけで、どうでしょうかというのは難しいところだと思います。

やはり、少しは相互に検討といいますか、意見交換というのはあってもいいのかなと思います。

○瀬口会長

ありがとうございます。

病院の先生方の意見は、大体わかるような気がします。地元医師会としては、広域性と市民病院の性格についてどういう考えでしょうか。

○花井委員

何かの文書で書かせていただいて覚えもあるのですが、コンセプト優先で考えれば、間違いなく、半田運動公園のほうが理論上正しいと思います。

なぜかという、北に動く意味がない。北に行くと、刈谷豊田総合病院とか西知多総合病院と患者さんの取り合いになる。そういうところに持つて行くよりは、知多半島は今の知多半島医療圏という2次医療圏で一つに囲まれています。実際には北部、中部、南部と、それで医療資源が違って、必要とされる色、ニーズも変わってきています。

北部は、愛知県の中で名古屋市と一緒になっていて、知多半島といえども、知多半島北部は、ちょっと違う医療環境があります。

中部、南部をしっかりとめていくのが半田病院の役割じゃないかなと、私は特に思っています。大体今まで医師会の間で話をしております。必ず中部、南部はどうか、というふうに考えるようになっています。

そうした中で、その中部、南部のど真ん中というのは、やっぱり半田運動公園、半田インターのあたりが利便性としても、それから、知多半島の中で、2次医療圏の中の、北部を除いた中部、南部の中の中心地点という位置としても、1番いいのではないかと思います。

ただ、以前にも半田運動公園は候補地になったことがあるのですが、あそこに造ろうという話がでた時に、乙川、亀崎の人が、「あそこは半田でない」というふうに言いました。逆に、今度、北部グラウンドに造ろうと言ったら、今度は板山の人が「あそこは半田じゃない」という話をするし、非常に苦慮するところなんですね。

先ほど要望書の話をしていただいたのは、お互いが何をいいあっているのかを知りたいというのがあったので、それをお願いしたい。

あとは、一長一短があり過ぎて、この問題はどっちがいいのか決められないですね。

先ほどこの表を拝見してわかりましたが、工期も一緒、かかる資金もほぼ一緒、造りにくい造りやすいかもない。

共通しているのは遠いということだけなので、どちらがいいかという話は非常に難しいです。

ただ、コンセプトからすれば、考え方として正しいのは半田運動公園だと思います。先ほどから話が出ているように、常滑市民病院と折合いをどうつけるんだというところがありまして、お互いに腹を割って話し合って、主に高度急性期はこっち、急性期はこっち、慢性期はこっちというような、ある程度の役割分担、機能分担ができるのであれば、こんな素晴らしいことはないです。

お互い、赤字を補填し合って、かなりの効率のいい病院がつくれると思います。

ただ、半田市と常滑市が、今までそういうことができなかった。かつてやったことがない。

何かあると、また半田が何か言っているとか、常滑が何とかと言っているのか、行政の方々が、そこをうまく調整して、仲良しになっていただけたらどうか、プロジ

ェクトの成否を握っていると私は思います。

そここのところは、もし、これで候補地を半田運動公園にしてしまうという話になりそうな時に、常滑市長さんに「こんな話になりつつありますが、いかがでしょうか。」という話を言っていただかないと、やってしまってからではもめるし、また要件が一つ増えるという話になりかねませんので、そこも含めて考えていただきたいと思います。

ただ、北部グラウンドにした時には、あの場所もまた微妙でして、知多市と東浦町、阿久比町の各行政区域に影響がかなり及ぶと思います。

ですので、そちらのほうの行政の方ともお話をし、医師会の中でもそちらの医師会の先生達とある程度意見交換をしておかないとまずいのかな、というふうに思っています。

どちらにしても端っこなので隣があるということです。

隣があるということは、隣の意見を聞かずに「ここはうちの行政範囲内だから、おれがここに何を造ろうが構わない。」ということは許せない話なので、端っこは端っこなりの仁義をたてていかないといけないと思います。

○瀬口会長

副市長さんのご意見はどうですか。差し障りがあるなら結構ですが。

○堀寄委員

場所につきましては、いろいろな方からご心配をいただいております。

実は先日も常滑市長と一緒に幕張のほうに行っておりまして、正式なテーブルではないですが、そういった可能性があるということは既にお伝えしてあります。

正式に場所が半田運動公園に決まる前に、常滑市さんと、それを前提に話し合うということ。逆に、北部グラウンドに決まれば、恐らく今の花井先生の話ですと阿久比町さんとの影響があるのですが。

どのタイミングからを正式だということのところは、非常に難しくてはっきり線が引きにくい。

○花井委員

「話が出ていますよ」ぐらいの話でいいんです。

○堀寄委員

「話が出ていますよ」ってことは既に、阿久比町長さんも北部グラウンドの話があることはご存じですし、常滑市長さんも半田運動公園の話があることはご存じです。

○瀬口会長

直接言われているということによろしいですか。常滑市長さんには直接話されたのですか。

○堀寄委員

はい。

○瀬口会長

阿久比町長さんにはどうでしょうか。

○堀寄委員

阿久比町長さんは恐らく新聞報道か何かを見てご存じかと思います。

○瀬口会長

それでは納得しないのではないのでしょうか。

○堀寄委員

阿久比の町長さん側から「阿久比としてはそこに造ってくれるという選択肢は悪くないよ」みたいなコミュニケーションはとってます。

○瀬口会長

そうですね。今ご指摘のように、市の境ですから、影響があるところにはお話ししたほうがいいのかと思います。

特に、北部グラウンドを見せてもらいましたが、阿久比町の道路を通って行くんですね。半田のほうの旧半田町の人たちは、多分、亀崎のほうから行かなくて、阿久比町のほうから行くと思うので、ひょっとしたら阿久比町の病院じゃないのというふうになりがちだと。

それから半田運動公園のほうは、とても臭気が強くて、これはどうするのかな。

それで、家畜にEM菌を食べさせると臭気が非常におさまるといようなこともあるし、その問題をどういうふうに考えるのか。やっぱり臭気の問題は、すごく真剣に考えないといけないと思います。

○堀寄委員

臭気は臭気で、半田市固有の歴史ある問題ですので、我々も大同大学と共同研究するですとか、いろいろな選択肢で、臭気が無くせないかなということをやっておりますが、日本国中いまだに臭気の問題が残っておるのが、その答えでありまして、なかなか簡単に臭気をゼロにするということは難しい。

EM菌などいろいろな業者サイドのものを持っておられるのですが、やはり、これも難しい。

その努力は、この後もきちっと続けていきたいと思います。

○瀬口会長

畜舎管理ですね。

○堀寄委員

はい。

○瀬口会長

臭気が外に漏れないように、内部で全部管理することができれば環境がよくなると思いますが、どうでしょうか。

渡邊副院長さん、臭気がある病院というのはいかがですか。

○渡邊委員

臭気の問題は大事ですが、大きな病院を建てる上での、大きな今のコンセプトからすると、申し訳ないですが、僕は臭気によってそれが外れてしまうというほどの項目だとは、正直思っておりません。

それこそ知恵を絞れば何とか対応できる、対応すべき問題であって、僕らが知恵を絞るかどうか、その建設面での知恵は絞ればいいと思います。

まだ時間はありますが、今回のこの会議で、雁宿ホールを本当に候補地に入れるのかどうか。先ほど僕も言いましたが、市民のための病院、市民だけのことを考えれば、どう考えたって雁宿ホールがいいと思います。

ただ、工期が延びてしまう。それを了承するのかどうか。

雁宿ホールの場合、開院は今から 10 年先ですから、それまでの間この病院がもつのかどうか。

さんざん院長も言っておりますが、本来であれば、順調にいったいけば 3 年後には新病院ができていたと思います。

それが 2 年遅れ、さらに遅れて 10 年と言うと、多分建物自体じゃなくても、この病院に若い医者が来ないという状況になれば、恐らく病院として機能しないということになるのではないのでしょうか。

ですから、恐らく 10 年は待てないと思います。

そういうことまでして、市民病院として市民のための病院を造るんだということであれば、それでもいいと思いますが、かなりの覚悟が要ると思います。

○瀬口会長

他の委員さんどうでしょうか。

○小栗委員

今、半田区長会でも、いろいろなことがありまして、区長会としての結論というものは出しておりません。

遠い近いとかといったことも含め、いろいろ問題がありまして、市内的に考えると、半田運動公園辺りが、どこの地域からいっても同じぐらいの距離かな、というところがあります。

あとはインフラ整備。先ほどありましたバスとか、そういったものの整備ですね。それを極力きちっと具体的化して、見えるような形でしていけば、僕は半田運動公園でされるのが 1 番いいかなというふうに、今は考えております。

いろいろなことがあるかと思いますが、やはり早く病院が建てられるということが、まず、1 番大事だというように思っておりますので、いろいろなご意見ももちろんあり、尊重しますが、私はそんなふうに思っています。

○瀬口会長

何となく皆さん半田運動公園がいいという感じで捉えているのでしょうか。

テーマやコンセプトをしっかりと、半田病院の将来の展望を、もうちょっと広くカバーするような病院ということで考えていきたいと。

そうすると、その病院のコンセプトというものを次回出していただいて。あと何回委員会はありますか。次回で終わりですか。

○竹内事務局長

2月と3月に1回ずつの予定ですので、あと2回あります。

○瀬口会長

そうすると次回はそのコンセプトを出していただいて、そして、一方で花井委員さんから話がありました、地域の方の要望というものもやっぱり検討してみる必要があるということなののでしょうか。

それから、前回問題になったインフラの中でアクセス道路だとか。私も半田中央インターからずいぶん近いなと思ったんですけど。

私は岡崎に住んでいるのですが、岡崎市民病院は、私の家からは近いですが、矢作川の西側から来ると、同じ市内ですがちょっと遠い。それに比べると、意外と近いなと思った印象があったのですが、臭気はそうかなというふうに思っていましたので、前回も問題になりました交通アクセスが、緊急時のときに活断層をまたぐような形で、緊急輸送道路ができると、やっぱり影響があるかもしれないと。

だから、活断層をまたがないようなアクセス道路を、どこになってもいいように考えていかなければいけないというのは一つあると思います。

病院が残っても、機能しないといけないので、コンセプトを出してくる地元の人の意向を考えていくということで、経営的には広いコンセプトになるとどうなるかというのは、判断をしにくいと思いますが、その上で、篠田委員さんが前回指摘された、やっぱり赤字になっちゃいかんということを、確認をする必要があるかもしれない。

そのように思いますが、市民病院なのか、もうちょっと広域性のある病院なのかとかですね。

そういう広域性ということで考えていくと、先ほどもちょっと触れていただきましたが、どういうふうに考えていけばよろしいのでしょうか。

○清井委員

いろいろな診療が複雑に絡み合っている事情がありますので、一概に私の立場では申し上げにくいのですが、先ほど言われた、災害拠点であるとか高度救命救急であるとか、そういう広域性を逆に高めていった場合に、この、ベッド数も変わってくるでしょうし、建設が延びることによって、医療機器の寿命がきて、どんどん更新していく必要が出てくる。

それが、少なくとも現段階で次の7年後ということを考えた場合に、恐らく今から7年後は、新しいものでもほぼ全部だめな状況だと思うのですが、その更新の費用、ある

いは、次がどういうレベルに対応する病院になるのかということによって、一時的に更新して次に持っていくときの機器の選定にもかかわってくると思います。

そのこのところも踏まえると、実は新病院の建物の建設費が変わらなくても、施設として充実させる医療機器の値段がかなり変わってくると思います。

その辺りの見直しまでかかわってくることを、私は危惧しています。

ですから、なかなか正式なことはやりにくいとおっしゃられたけれども、やはりどういう方向性かということで、一概に建物の建設費だけで病院は建つわけではありませんので、やっぱり慎重な対応という話はしておかれたほうがいいのではないかなと、私は懸念するのですが、いかがでしょうか。

○渡邊委員

機器につきましては、建設が延びたことによりまして1番大きな影響を受けるのが電子カルテシステムです。

電子カルテの更新を2年ほど前にしたので、開院が5年後であればそのまま新病院で新しいものに更新するという予定でしたが、2年以上延びますので、何とかそこを持たせて、少なくともそこで全部また新しいものにして2、3年で病院移転というのは非常に非効率ですので、その辺はうまくやる方法を、今、担当が調整してくれています。

ほかの医療機器につきましても、移転は8年後になりますから、そこまでに更新をして、持っていってほしいという機器はどういう機器かということも、一応大きなのは放射線の機器ですので、その辺につきましても、今検討してくれています。恐らく、新病院に持っていく機器もかなり出てくるかと思います。

今すぐ即答はできませんが、その辺りの検討は現在すでに行っております。

○瀬口会長

市としては全面的に支援するという立場でよろしいですか。そういうふうに理解してよろしいですか。

○堀寄委員

はい。もちろん先生の言われたとおりで、全面的な支援はすでにお約束しております。

繰り返しになりますが、そういったことを含めて、今日もそうですが、利便性の議論もありましたし、災害に対する議論もありました。

けれども、やはり早期病院建設というものを、この会議の中では、ぜひ、今言ったような事情で、必要性というところをしっかりとご認識いただいて、この先の議論をぜひお願いしたいと思っております。

○瀬口会長

副市長さんのご意見は、雁宿ホールは、ちょっと時間かかるので、この際、候補地から外してはどうかというご意見かと思うのですが、都市計画的に見ると、コンパクトシティということを考えなきゃいけないのですが、皆さん方の病院側から考えて、今までお話を伺っていると、それほどこだわらないようなご意見だったかと思うのですが、やっぱり雁宿ホールが良いという方は、いらっしゃるのでしょうか。

○篠田委員

私は、半田運動公園のほうがいいかと、ずっと思っておったのですが、やはりそれを決めるには相当考えないといけないと思いますね。やっぱり説得できる要素がないと。

前回の予定地がつぶれてしまったのも、説得できなかったというのが1番大きい理由ですね。

これから団塊の世代がどんどんどんどん年とってくると、半田病院の次の病院がない、回復期の病院をどうするのかという話が、以前の会議で話題に上がっていました。

ですから、向こうに行けば、多分その問題がまた出てくると思うんですね。この病院を残した後、行った後どうするのか。そのような病院をどこかに造るのか。

あるいは、市民が割に来やすいようなものをどうするのか。

実は医師会さんと非常に密接な関係があるので、その辺のところをもういっぺん、考える必要があると思います。

その時には、新病院を職員駐車場へ造ったときには、こちらの病棟は、場合によっては、回復期の病棟として一部残してもいいんじゃないかという話が出たっただけですが。そういう話もあったんです。

前回の話のときには、今、医師会さんのほうでは、ちょうど雁宿ホールの近くに医師会の会館があるので、そこで市民の人の簡単な診療ができるようなことも考えんでもない、ということも実は言われました。

ですから、市民に対する説得を考える上で、その辺のところを検討し、発表するとか、あるいは発表しなくても、こういうことまで検討しました、ということが大事なことだと思います。

○瀬口会長

今の病院は、たとえば名古屋大学病院に行こうとすると、紹介状がないと高くなりますよね。ですから、そういう地域の病院とかクリニックと連携していて、役割分担をしているんですね。誰でも来ると困るので。

○清井委員

初診の患者さんがですよ。半田病院でもそうだと思います。

○瀬口会長

そういうネットワークを、つまり、市民サービスを半田病院はどこまで担って、医師会さんたちの病院がどう担っていくのかという役割を、もう少し明確にしないといけないと思います。

○渡邊委員

今回の会議は、もし可能なら、常滑市民病院の院長先生にオブザーバーとして出ていただいたほうがいいのではないのでしょうか。もし半田運動公園にならないなら、別に構いませんが。

○瀬口会長

いずれにしても今日の話だと、コンセプトですね。

○渡邊委員

そうですね。

○瀬口会長

それから、市民病院としての役割と両方を今、議論しているわけです。

この二つの考え方をやっぱりきちっと市民に対して説明していかないと、どこになっても説得が難しくなる。こういうことですね。

そういうことは可能ですか。

○竹内事務局長

ちょっと難しいかもしれません。

○瀬口会長

そういうことは、~~常滑市民~~常滑市民病院の院長さんにご出席していただきたいですね。

○篠田委員

前の会議のときは出席していただいていたいました。

○竹内事務局長

前回、出席していただいた際には、委員になっていただいていたいました。もちろん日程調整したうえで、出席していただきましたけれども。

次は、もう日程も決まっていますので、先方にお話をさせていただいて、ご出席いただけるということであれば、来ていただくということも可能だと思います。

○瀬口会長

よろしくお願いいたします。

やっぱり後で、市民の皆さんの理解が、そのところの情報が少なくなるので、是非、もし来られなかったらテープメッセージか何かをいただくとか、何か工夫していただいたら、直接、院長さんの考えも伺うことができるなというふうに思います。

○花井委員

もしそういう話であるならば、今日まだ 30 分弱あるので、もう少し話を進めて、例えば雁宿ホール、先ほどちょっと話が出ましたが、候補に残すのか、残さないのか、その辺まで話を進めておいたらいかがでしょうか。

○篠田委員

私も賛成です。

○瀬口会長

どういうふうにしたらよろしいですか。

○篠田委員

大体わかるのではないですか。今までの話の中で、やはり、いろいろな利点・欠点を見ていくと、しかも、これからは広域化していくというコンセプトも、非常に大切だということになってきていますので。

しかも、ここでは花井先生はあまり言われなくても、実は、この半田っていうのは、この病院と医師会がものすごく仲がいいんですよ。

ただし、知多半島内の他の医師会はどうなのかっていう話になると、よくわかりません。

それと、半田は、医師会が非常に仲がいいもんですから、在宅医療の率というのも非常に高いと聞いています。そういうことがありますんですね。

市民の説得をどう考えるか、どういうふうに説得というよりも、こうなったものについて「なるほどな」と思われる過程というのをきちっと進めていく中で、半田運動公園になっていく、というのが1番いいんじゃないかと思います。

○瀬口会長

議論の結果、そういう方向になりつつあるということですね。

○篠田委員

そうですね。今日聞いておまして、私は、渡邊先生がおっしゃるように、コンセプトが1番大事だと思っております。

会社の経営でも「自分の会社はどうなんだ。」というコンセプトがしっかりしていないといけない。病院も同じで、病院そのものをどうするかで、みんな変わってしまう。

それさえ、はっきりしていれば、私はこの半田運動公園になっていくっていうことについては、異議はないと思います。

○瀬口会長

今、篠田さんから大体方向性を決めていただく発言をしていただきました。議論の結果ですね。今日、雁宿ホールの資料出していただいたことは非常にいいと思います。ただ、拡張しようとする、全体的に2ヘクタールということで面積が狭いとか、問題があるようですね。いろいろなことを考えると、半田運動公園と北部グラウンドの二つになってきたわけです。

やや半田運動公園の方がいいのではないかという声が、今日はやや強かったなと思います。

次回はコンセプトをきちっと出していただいて、これは立地の話とちょっと違いますし、病院の専門家の先生方で議論していただいてもいいわけですが、病院の役割を立地と絡めながら、広域性と市民病院としての役割の両方を、もう少し検討してみると、いうことでしょうか。

それから、今日いただいた話では、やっぱりアクセスだとか利便性とはどうしても残

る。それから、病院の建物については、半田市庁舎の防災の経験があるので、それを活かしていけばいい、というアドバイスをいただきました。場所や建物の性格が違うので、場所がどこになっても、専門家を交えて、より一層の慎重な検討を行うということをアドバイスと意見をいただきました。

活断層はそんなに恐れることはないが、恐れなきやいけないという、専門家ならではのご意見をいただいたかと思います。

○飛田先生

多分大丈夫だと思いますが、決して活断層を軽視してはいけないと思いますし、それによって大きな差をつけるよりも、対応に万全を期すほうが正しいであろうという意見です。

○瀬口会長

ありがとうございます。

私どもが今日議論したのは、経営面、活断層。経営面は、コンセプトがもう少し明確になると、またその段階で明らかになる。

それから、次回は先ほどの地域の住民の方の要望書を出していただく。

それと、常滑市民病院の院長さんの直接の出席か、声のメッセージというのをいただくかということでしょうか。

あとは、それぞれ懸念、臭気は問題ないと言われましたが、やはり、シームレスの生活をしようとする、長期にあそこで病気を回復しようとする、やっぱり快適な生活環境というのは、ぜひ獲得していただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

○清井委員

どういうコンセプトの病院にするのか、広域性を目指すのか、あるいは高度救急を目指すのか、確かにそれでいろいろ後方病院もあって、シームレスにしていくということは非常に重要である一方で、働く医師をどのように確保していくのか、どういう専門家の医師を何人確保していくのか、ということは非常に重要なことです。

例えば、先ほどの議論で、半田運動公園の所だと常滑市民病院と非常に近くなってくると。それで、いろいろ考慮していくというのは非常にいいことでありますが、その中で、既にこちらの半田病院にも医師がいて、常滑市民病院にも医師がいて、それぞれの専門性というのがある程度ある中で、それを踏まえてやっていくときにどのようになっているのか。それは北部グラウンドに行った場合でも、刈谷豊田総合病院が高度急性期を担っているというか、ベッド数が今多くなっていますから、それとの立ち位置、そういうものが理想論として描けても、現実的にそれだけの医療関係者を確保できるのか、あるいはどの程度必要になっていくのか、効率的にやっていけるのか、というところの議論がないと、絵はかけても現実には難しいし、最近特に、働き方改革ということが言われておりますので、通常に考えると、きっと半田病院、常滑市民病院はみんな、なかなか表には言えないような事っていうのがきっとある中で、医療というのが成立しているというのが現実ですので、どちらになっても、働く人が確保できればいいのですが、現

実は、やはりそうではないというところもあるので、その辺も少し考慮に入れておいていただくほうがよろしいんじゃないかなと思います。

○瀬口会長

現実的な面ですね。

建物、病院ができたけれど、人はいない。医療機器は入ったけれど人はいないのでは、これは、話に入っていないということになりますので、その辺はちょっと専門外でよくわかりませんが、可能性というのはぜひ検討していただいて、身の丈の合った、病院にしていくということかと思いますので、コンセプトを含めて、次回、ご意見を伺えたらいいと思います。

山本さん、何かありますか。

○山本委員

「半田病院だよ」ということは、市民に十分、ある程度伝わっていると思います。

半田市民病院じゃなく、急性期病院ということは市民も重々承知で、先ほど花井先生もおっしゃったように、医師会との連携がとれているので、かかりつけ医を持っている世帯というのは多くなっていると思います。

○花井委員

ありがとうございます。ご理解をいただいております。

○瀬口会長

半田病院と半田市民病院とは違うのですか。

○山本委員

市民病院ではなく、半田病院ですよということ。市民のほうにも、半田市民病院ではなく。

○瀬口会長

名前が、ですね。性格は同じなんですね。

○篠田委員

性格が違うということです。

○瀬口会長

どういうふうに違うんですか。

○山本委員

半田市民は半分ですね。あとは阿久比町とか武豊町、他の知多半島のほうから半田病院の方に、入退院、通院されているという話は聞いてます。

○瀬口会長

実態ですよ。

○渡邊委員

結局、半田市民だけのための病院というと何となく半田市民病院。半田市立半田病院だと、半田市の市立の病院だけど、要は半田市の人だけではなくて、周りの他市町の人のための病院でもある。

○瀬口会長

それでは、次の展開を、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○渡邊委員

アンケートの件を確認させてください。病院を現在利用されている方々と医師会。歯科医師会にもアンケートをしたほうがいいのか、その辺はまだ検討してないのですが、やっぱりアンケートはやったほうがよろしいでしょうか。雁宿ホールを除いた2か所で。

といいますのは、多分この2か所ですと、区長さんのお話を聞いていますと、半田運動公園のほうが多くなるかなという印象がありますが、万が一、北部グラウンドのほうが多くなったら、やっぱり市民の声を聞いてと。

○瀬口会長

やはりコンセプトはどっちに転んでもあんまり変わらない。調整が変わってくるわけですが。

○渡邊委員

コンセプトがこうなのに、市民のお答えが違うっていう結果が出たときにどうするか。

○花井委員

どこを対象にアンケートをするのですか。

○渡邊委員

市民全体については、なかなか大変ですので、現在いろいろな地区から患者さんがみえますので、もちろん市外の方もみえますけれど、その場所をある程度わかるようにして、「2か所だったらどちらのほうを希望しますか」というのがまず1番の項目ですね。

要は利用していただけるかどうかということがわかるように、例えば乙川の方、あるいは亀崎の方が「半田運動公園になったら私はもう行きません。ほかの病院に行きます。」というようなことがわかるようなアンケートをすると、患者さんの流れがわかるのかなというように思っています。

○瀬口会長

どうでしょうか。アンケートの中身について。

○花井委員

「どちらとも言えない」という選択肢を外せば、やる価値はあると思います。「どちらとも言えない」を入れると、みんな「どちらとも言えない」にする気がするので、「どちらとも言えない」を外して、二者択一でいけば、何らかの傾向が出るかもしれません。

○渡邊委員

そういう傾向がわかるようなアンケート自体を、「そんなことはもう今の時点でやらんほうがいいでしょう」というご意見ならやりませんし、「やっぱりやったほうがいいでしょう」ということであれば、1週間ぐらいかけてやろうと思いますがいかがでしょうか。

○花井委員

確か「医師会でもやりましょうか」という話はしましたね。

「まだちょっと待って」という話になって、待っていますが、やらなくても結果はわかっていますよね。医師会の場合は、自分の地元に近いところに造ったがいてという結果になるのは。

○渡邊委員

医師会さんは、そうかもしれませんね。

○花井委員

わかりやすい結果になるという気がするんだけど。

○渡邊委員

そういう意味では、いわゆる市民の声を聞かずにまた決めたのかっていうふうになりませんか。

○瀬口会長

いや、それはやっぱり、地域のどこにお住まいかというのを書いてもらって。

○渡邊委員

もちろんそうです。そういうことで行います。

○瀬口会長

クロス分析して、住んでいるところが近いといっている人とか、そうじゃない、そのファクターを除いた場合とか、いろいろなバイアスをできるだけ除くような形で処理できるようにしておいたほうが、アンケートとしていいかもしれませんね。

○渡邊委員

基本的には、アンケートはやるべきだということによろしいでしょうか。

○小栗委員

私たち区長会でもそうですが、その議題を出すと、はっきり言って、成岩地区の人は成岩地区に近いところがいいに決まっているんです。

亀崎や乙川の人は北部がいいに、ほとんど決まっています。

そういうがあるので、そこを蒸し返すと、正直言って、区長会としても收拾がつかなくなるものですから。

○渡邊委員

僕もそういうご意見があるかと思って、やらないほうがいいのかなとも思っているものですから。

○篠田委員

どちらにしても、北部グラウンドと半田運動公園では、遠いということでは差異はないんですよ。どっちにしても遠い。

そうしたら、今、小栗さんが言われたように、自分が住んでいる地域に近いほうがいいというに決まっているし、遠い人はですよ。

○花井委員

やらなきゃやらないっていうほうが、それはいいのかもしれませんが、やる必要がないという判断をしたのなら、皆さん、市民の方がわかるような情報公開の仕方をしないと、また、その会議の中で、アンケートの話も出たけれど、どうしてそこまでする必要はないという結論に至ったかというのをわかりやすく説明しておかないと、今度は我々が炎上することになりかねません。

○瀬口会長

23 ページに半田市内の地区別人口の分布があります。人口重心という考え方がありますが、半田の人口重心はどこでしょうか。それを建設部に出してもらえませんか。

○竹内事務局長

人口重心は、半田赤レンガ建物の前の社会保険事務所の辺りです。

○瀬口会長

社会保険事務所のところ、赤レンガのところが重心なんですか。

そこから考えて、病院の位置がほぼ同距離で、そして人口の位置とほぼ同じ結論が出るんじゃないですか。

自分が住んでいるところを有利だと考える人が多いとすると、ほぼ五分五分の結果がでそうな気がするんですが。

これを見ると、半田と成岩のこちらのほうが7万人で、乙川と亀崎のほうは4万人だから、半田地区、協和・成岩地区の半田運動公園のほうが人数が多いように思うから、公平にランダムにとると、半田運動公園のほうが多く出ると思いますね、単純にいけば。

そのほうが、公平かもしれませんね。住民票から乱数で選んで。

○渡邊委員

と言いますと、今、現病院に通院していただいている方へのアンケートというのではなくて、無作為にやるということですか。

○瀬口会長

両方できませんか。

○竹内事務局長

無作為ですと、ちょっとそこまでの時間が難しいかなと思います。郵送して戻してもらうのに時間がかかるので。申し訳ありません。

○瀬口会長

時間がないそうですから、一つしかできません。やったほうがいいということですね。

○花井委員

うまい理由を考えていただければ、やらなくていいと思います。

○渡邊委員

やらない方向で何か考えます。知恵を絞ります。

○竹内事務局長

実施するかどうかについて、考えさせていただきます。

○渡邊委員

病院に一任していただくということでよろしいでしょうか。はい、わかりました。

○瀬口会長

それでは、本日、議論いただきましたので少し方向性が見えた感じもいたしますが、特になければ、あとは事務局から伝達事項をお願いいたします。

○都築主幹

その他として、事務局から3点ご連絡させていただきます。

1点目は、次回委員会の日程でございますが、事前にご案内させていただいたとおり、2月18日の日曜日午後2時から、場所は今回と同じ第4会議室を予定していますので、よろしく願いいたします。

2点目は、本日の議事録についてです。

2月5日をめどに事務局から委員の皆様へ、議事要旨録案の確認をご依頼させていただきます。

大変恐縮でございますが、それを1週間を目途にご確認いただき、事務局にご返送いただきたいと思います。

皆様の確認が済みましたら、後日、当院のホームページで公開する予定をしております。
3点目は、災害対策講演会のご案内です。

平成28年4月の熊本地震で、被災し病院避難を経験された熊本市民病院の、高田院長先生を講師としてお招きし、大規模災害の被災実態とその備えについてご講演いただきます。

日時は、平成30年2月2日金曜日の午後6時から、場所はアイプラザ半田の講堂で開催いたします。

皆様のお手元に、案内を配布させていただきましたので、よろしくお願いいたします。
以上でございます。

○瀬口会長

はい。ありがとうございました。

本日予定をしておりました議事については、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会》

以上